

内容解説資料

じっきょう 家庭科資料  
(通巻 78 号)

## みんなで家庭科を

No. 63

## 巻頭

家庭科における  
リーダーシップ教育

## もくじ /

家庭科におけるリーダーシップ教育.....	1
「18歳成年」と消費者トラブルについて考える.....	7
性的マイノリティについて～学校現場で求められる多様な性の学習～.....	13
サラダから見た野菜の食べ方の変遷.....	19

## 家庭科におけるリーダーシップ教育

東京都立駒場高等学校 教諭 木村 裕美

## はじめに～リーダーシップ教育との出会い

私が授業を行う上で難しいと感じていることは、生徒が自ら考えて行動する力を育むことです。家庭や地域社会に関わる人たちとお互いの力を合わせて活動することや、状況に応じて自らの意思で家庭や地域の生活を創りだしていく力を養うことを家庭科では求められています。その力を養うためにグループワークや実習等を通してクラスの仲間と協力して自ら考えて行動することができるような授業作りに取り組んでいます。しかしながら、生徒たちに対して自ら考えて行動することを求めても、「人の目が気になる」「空気が読めない人だと思われるのは嫌だ」「自分から行動することで SNS で何をいわれるか心配」「失敗したくない」「自分から行動しろ」といわれても、何をどのようにやればよいのかわからない」等、自ら考えて行動することに対しては前向きではない生徒が少なくありません。この状況をどうすれば打破できるのかと悩んでいた折に、リーダーシップ教育に出会いました。

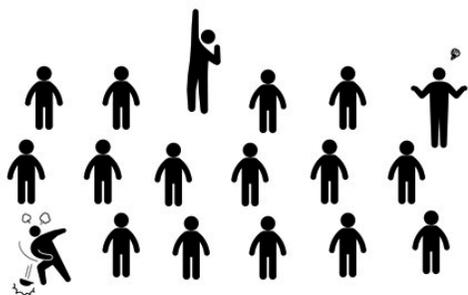
## 1. リーダーシップ教育とは何か？

リーダーシップという言葉を知ると、集団の中にリーダーの立場の人がいて、その人によって発揮される力をイメージされる方が多いかもしれません。人望のある人やカリスマ性のある人、役職につくような権限を持っている立場にあるような人が発揮する力—それが、今の日本で一般的にイメージされるリーダーシップ像かもしれません。一方、これからお伝えしていくリーダーシップは、前に述べたものとは少し異なっています。選ばれた人がその他の人たちを導いていくようなリーダーシップではなく、メンバー全員がそれぞれの持ち味を生かしながら役割を果たす過程で、お互いに影響を与え合い、その結果として成果を得ることができるリーダーシップです。メンバー全員で共通の目的を達成するために、自分の得意とする分野でリーダーシップを発揮していきます。このリーダーシップは権限を持っていなくても発揮することができるので、メンバー全員がそれぞれの立場からリーダーシップを発揮すること

## ② みんなで家庭科を

が可能になります。現代社会は時代の変化のスピードが速く、さらに解決しなければならない問題も多く、今までの問題解決の方法（権限を持っている人がリーダーシップを発揮し、すべてのことを決定しメンバーに指示を出し、メンバーはその指示に従って行動すること）だけでは対応しきれないケースが多くなってきています。現在、日本も含めて世界的にチームのメンバー全員によるリーダーシップ発揮の必要性が高まってきています。

リーダーシップは  
選ばれた人や権限を持っている人が発揮するもの



リーダーシップは、他者との関係性を意識し影響を与え合いながら行動し続けることで発揮できるようになっていきます。リーダーシップが発揮できるようになると、様々な人と協力しながら家庭・地域社会に参画する力を養うことにも繋がっていきます。グループワークや実習の時に、生徒自身にリーダーシップの観点からも個人の目標を設定させ、生徒自らが考え行動することを促し、メンバーと協力しそれぞれの得意分野を活かしながらリーダーシップを発揮する場を授業内で創り出していきます。

リーダーシップを発揮することを何度も繰り返し練習していくことで、自ら考えて行動できるようになっていきます。他者との関係性を重視しているリーダーシップ教育と、家庭科教育の共通項はたくさんあると考えています（家族の一員、地域社会の一員、消費者としての一員としての役割を果たすなど）。

家庭科で今まで教えてきたこと（家族や地域の人々との関係性に対するアプローチ方法）を生徒により具体的に教えるために、リーダーシップ教育の観点からも捉えた形で学習の過程に加えただけで、難しいことを授業に導入しているわけではありません。他者との関係性に関する学習を授業の中に入れて込む仕組み作りさえできれば、誰にでも簡単に授業に導入することができますし、熟達した指導技術が必要なわけでもありません。

### 2. リーダーシップを発揮するためには

リーダーシップを発揮するためには、「目的を共有する」「自ら率先して行動する」「仲間を支援する（支援し合う）」の3つの要素があり、最初のうちは生徒たちにこの3つの要素の中からリーダーシップの目標を設定させると、グループワークや実習等に導入しやすいかもしれません（参照：実教出版発行「生活学 Navi 2019」「ニューライブラリー資料家庭科 2019」「ニュービジュアル資料家庭科 2019」口絵3「チーム作りってどうやったらいいの?」）。

リーダーシップを身につけるには、共通の目的に向かって、①チームの目標の設定→②自分のリーダーシップ目標の設定→③行動（リーダーシップ発揮）→④行動に対してフィードバックを交換→⑤改善計画→⑥振り返り→①チームの目標設定…と繰り返していく必要があります。リーダーシップは1回の授業で発揮できるようになるのではなく、根気強く練習する必要がありますが、練習する価値はあります。リーダーシップが発揮できるようになっていくことで、他者との関係性が深まり、今までよりも生徒同士のコミュニケーションが円滑になっていきます。さらに、自分の強みを活かせることや他者からのポジティブなフィードバックにより、自分の良さに気づくこともでき、自己肯定感をさらに高めることにも繋がります。アイデンティティの形成にもプラスの作用をもたらします。

ファーストステップとして授業内でリーダーシッ

プが発揮できることを目指すことから始め、授業内で発揮できるようになってきたら、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動等の校外の活動にも広がっていきます。また、家庭科だけで完結するのではなく、他教科や行事・部活等でも少しずつ発揮できるように促していくと、リーダーシップ発揮の力はさらに向上していきます。他教科の先生たちとも連携しながら、それぞれの生徒のペースにあった形で進めていけるとよりベストです。社会ではリーダーシップを発揮できる人へのニーズが更に高まっていますし、リーダーシップ教育を行っている高校や大学も増えてきています。リーダーシップ発揮のための基礎の力を高校生のうちに身につけることができれば、その先の人生においても、更にその力を伸ばしていくことが容易になっていきます。

### 3. リーダーシップ教育を始めるには

リーダーシップ教育を行うにあたっては、次の4つの項目を意識して授業作りを行うと、生徒がリーダーシップを発揮しやすい環境を作ることができます。授業に導入しやすい項目から始めてみてはいかがでしょうか。

#### 〈リーダーシップ教育を始めるための4つの要素〉

##### 1) 班のメンバーを毎回変える

多様な他者との関係性を作り出すために、グループワークや実習のメンバーは毎回変えるようにしています。1学期の始めは新しい学年やクラスになり、まだクラスの様子がわからないこともあり、生徒たちの緊張感が高い状態なので、グループワークなどのメンバーは変えない方が集団としての安定性は高まるかもしれません。しかしながら、特定の相手との関係性は深まるかもしれませんが、クラスの他のメンバーとの関係性は希薄な状態が続いてしまう可能性があります。特定の相手との関係性がうまく構築できなかった場合などは、その関係性が他のメンバーに伝播し、集団に対しての適応が難しくなるケースもあります。そこで、毎回の授業で新しいメンバーと交流することにより、多様なメンバーとの関係性を深めることができるので、場の安全性を高める効果も期待できます。また、メンバーとの交流から多様な考え方を得ることで、自分の視野を広げたり、考えを深めたりすることにも繋がっていきます。本校では、グループワークのメンバー決めは、ピンポン玉のくじで決めています（くじを引くとき

に少し盛り上がり、お楽しみタイムになっています）。2学期中盤までは班のメンバーの男女比を考慮しますが、集団の人間関係が深まってきたら、男女比等もフリーな状態に移行していきます。

##### 2) 「質問できる力」をつける



リーダーシップを発揮するには他者とのコミュニケーションが必要不可欠です。しかしながら、コミュニケーションが不得意な生徒は少なくありません。そのような生徒に対応するためにも、質問を有効活用します。自分から話すことはできなくても、質問ならハードルはだいぶ低く考えると考えるからです。良質な質問の型を習得し、グループワーク等での活動で使えるように練習していきます。また、質問することで他者の考えや良いアイデアを引き出せたり、目標や今の状況を確認することもできたりと、グループワーク等の質を高めていくこともできます。本校では、質問の練習に「質問トランプ」を活用しています。質問を通して相手を知ることのできるので、生徒同士の相互理解を深める作用もあります（生徒たちには非常に好評です）。

##### 3) 相手を少しずつ増やしていく

集団の中でリーダーシップを発揮することに対して、とても難しいことのように捉える生徒や、自分にはできないこととして行動に移すことを嫌がる生徒もいます。そこで、「リーダーシップは自分がやろうとすれば誰にでも発揮できるもの」ということを少しずつ理解できるように授業を進めていきます。まずは、教室の隣の相手と二人でチームを組んで行える課題から始めていきます。慣れてきたら、4人グループ、5人グループ、10人グループとリーダーシップを発揮する相手を徐々に増やしていき、3学期の終わりにはクラス全員に対してリーダーシップが発揮できるようになることを目指して、段階を細かく踏みながら進めていきます。段階を細かく踏むことで、リーダーシップ発揮に対するハード

ルを低く設定することができ、生徒が乗り越えられやすい課題を設定することが可能になります。「小さな成功体験」を重ねていくことで、生徒に自信をつけさせていくのです。教師側としては、生徒の様子を観察しながら人数を調節していきます。人数を減らす段階に戻る必要性も出てくる場合もあるので、焦らずに進めることが大切です。

#### 4) 他者からのフィードバック

フィードバックとは、ある人が行った行動や発言に対して「ここが良かったよ」「ここを改善するともっと良くなるよ」など、まわりの人がどのように感じたのか、どのように見たのかを伝えることです。リーダーシップが発揮できるようになるためには、フィードバックがとても重要です。なぜなら、前に述べたように、リーダーシップは他者との関係性が重視されているので、自分の行動や発言が他者からどのように受け取られているのかを理解することができれば、自分の意図と他者の受け取り方のズレに気がつくことができます。そこから、そのフィードバックをヒントに、発言や行動をどのように直していけば他者に自分の考えていることが伝えられるようになるのかを内省していくことに繋がっていきます。フィードバックは内省を促し、行動変容を促進するツールになるのです。授業では、グループワーク等を行った時には、必ずフィードバックの時間を設けています。さらに、最初はポジティブなフィードバックから始めることで、生徒のフィードバックに対するハードルを下げるすることができます。良いところを褒められる過程で、自分が自覚していなかった長所などに気づくこともでき、自己肯定感を高める効果も期待できます。

#### 4. リーダーシップ教育を効果的に行うためには

生徒のリーダーシップ発揮を促すには、基本的なことですが、生徒の名前を覚えることが非常に有効です。生徒がリーダーシップを発揮した時には、できるだけ速やかにフィードバックすることが次のリーダーシップ行動を引き出すことに繋がります。名前を呼ぶことができれば、生徒から少し離れたところからでもフィードバックすることができます。さらに、少し離れたところからのフィードバックが他の生徒の耳にも届くことで、どのような行動に対してフィードバックされているのかを知ることができるので、他の生徒にも影響を与えることができま

す。担当している生徒の名前を全て覚えた年度は、覚えられなかった年度と比べると生徒の成長に大きな違いがあり、覚える労力以上の価値を実感することができました（お恥ずかしながら、生徒の名前を覚えきれない年が多いのが現状ですが、昨年度は担当生徒全員の名前を覚えました。8クラス320名2単位2時間連続授業）。

#### 5. 家庭科におけるリーダーシップ教育実践例

##### 〈ミッション1〉

2つの食品を比較し、担任の先生にお勧めせよ！

##### (1 学期後半 食物分野)

各チームに分かれ（4人×10班）、2つの食品の違いについて食品表示等を活用して調べ、模造紙にまとめ発表する。

##### リーダーシップの目標

チームの全員で協力する。

（どうしたらチームの全員が協力できるのか？）

課題の作業工程を複雑にして、作業時間も最小限な時間配分にし、チームのメンバー全員の協力が必要不可欠な状況を作り出すようにする。



##### 授業内容

- 1) 情報を集める。  
(図書館の活用方法・インターネットの検索方法等)
- 2) 情報を整理して相手に伝える。  
(調べた情報を整理して、班のメンバーに伝わるようにするには、どのような工夫が必要なのか?)
- 3) 資料を制作する。  
(今回は掲示資料と配布資料を制作し、2種類の資料の役割の違いを考える。)

〔掲示資料〕→発表内容をサポートする内容で、視覚的にすぐに伝わるようにする。

〔配布資料〕→手元に残しておきたい情報をコンパクトにまとめる。

### 〈ミッション2〉

#### ミニ講義の先生になろう！

（食物・消費分野—2学期の期末考査対策）

各チームに分かれ（10人×4班）、教科書の試験範囲を10人で分担し、担当生徒がチームのメンバーに対してミニ講義を行う。

#### リーダーシップの目標

自分で整理した情報をわかりやすく伝え、共有できるようになる。

（どうしたら、わかりやすく伝えられるのか？）



#### 授業内容

1) 教科書の担当ページについて要点をまとめる。  
（要約の方法について考える。）

2) ミニ講義を行う（3分）。

（相手に教えるにはどのような工夫が必要か？→各メンバーの教え方から学ぶ）

〔最後に確認テスト実施〕（○×問題）

### 〈ミッション3〉

自分たちのこれまで、これから

（3学期 保育分野）

各チームに分かれ（4人×10班）、教科書の保育分野を10班で分担し、各班で授業を行う。

#### リーダーシップの目標

班のメンバーで協力して授業を行う。

（メンバーの良いところを活かした授業を作るにはどうしたら良いか？）

#### 授業内容

1) 情報メモを作る。

（効率的な情報収集とは？）

〔司書と連携する〕

教科書に関係する分野の本を選ぶことに慣れていない生徒が多いので、司書と連携して本の選び方・地域の図書館の活用法等を授業内で説明することからスタートする。また、この単元の学習期間中は、教科書の中の重要ワードに関係のある本を図書室の各ブースへ展示することをお願いする。

2) 授業時間8分（その中に作成した映像を含む）  
（伝えたいことを表現するにはどうしたら良いのか？）

〔発表に映像を取り入れる利点〕

- ① 撮影する側とされる側が必要なので、協力することが不可欠となる。
- ② クラスのメンバー以外に対するインタビュー等が可能になる（他教科の先生・家族・保育士等）。
- ③ 人前で発表することが得意な生徒に対しては、映像の中で発表することを可能にすることで心理的負担感を少なくできる効果がある。
- ④ 映像編集技術等、普段の授業では発揮できない力を発揮することができる。
- ⑤ 映像化する工程で、自分たちの課題を多角的・多面な視点から見つめることができるので、理解度が深まる。

## 6. 各ミッションのフィードバック方法

1) 班のメンバー同士で相互フィードバックを行う。  
（毎授業）

2) 発表内容をクラス全体でフィードバックを行う。  
（発表時）

〔発表評価用ルーブリック〕（次頁参照）

保育分野発表評価参考表		2年 H 番 名前			
評価項目	( すこい! )	( いいね )	( まあまあ )	( がんばれ )	
1 C	教科書内容説明 教科書の内容が論理的にわかりやすく説明されていて、内容が理解できた。 5点	教科書の内容が説明されていて、内容が理解できた。 3点	教科書の内容は説明されていたが、内容は理解できなかった。 2点	教科書の内容が説明されていない。 0点	
2 B	問題提示とSDGs 班のテーマに沿った問題が提示されており、さらに班が選んだSDGsの項目との関係性がわかりやすく説明されていた。 5点	班のテーマに沿った問題が提示されており、さらに班が選んだSDGsの項目との関係性が説明されていた。 3点	班のテーマに沿った問題が提示されていたが、班が選んだSDGsの項目との関係性が説明されていない。 2点	班のテーマに沿った問題が提示されていない。 0点	
3 B	問題解決 班が提示した問題についての解決策が具体的に説明されていて、その考え方に納得することができた。 5点	班が提示した問題についての解決策が説明されていて、その考え方を理解することができた。 3点	班が提示した問題についての解決策が説明されていたが、その考え方を理解することができなかった。 2点	班が提示した問題についての解決策が説明されていない。 0点	
4 A B	演劇的手法 メンバーが劇の役割を演じることによって、伝えたい内容が適切に表現されていて、理解を深めることができた。 5点	メンバーが劇の役割を演じることによって、伝えたい内容を理解することができた。 3点	メンバーが劇の役割は演じていたが、伝えたい内容は理解できなかった。 2点	演劇的手法が取り入れられていなかった。 0点	
5 B	映像 映像が完成していて、映像によって伝えたい内容が適切に表現されていて、理解を深めることができた。 5点	映像が完成していて、映像によって伝えたい内容を理解することができた。 3点	映像は未完成だが上映することはできていた。 2点	映像が未完成で上映することができていなかった。 0点	
6 B C	資料 配布資料と掲示資料の特性を生かして作成されており、発表で効果的に活用することができていた。 5点	配布資料と掲示資料が用意されており、発表で使用することができていた。 3点	配布資料と掲示資料は用意されていたが、発表の中で使用されていないものもあった。 2点	発表資料と掲示資料の両方orどちらかが用意されていない。 0点	
7 B	発表の進行・構成 8分±30秒で発表できていて、発表も原稿を見ずにスムーズに進行され、構成も工夫されていることが分かった。 5点	8分±30秒で発表できていて、発表もスムーズに進行されていた。 3点	8分±30秒で発表はできていたが、発表はスムーズに進行されていなかった。 2点	8分±30秒で発表できていなかった。 0点	
8 A M	チームワーク チームで協力して発表することができていて、それが発表内容に影響を与えていることが感じられた。 5点	チームで協力して発表することができていた。 3点	チームで協力して発表しているように感じられなかった。 2点	メンバーで発表していない人がいた。(欠席以外で) 0点	
A: 学びに向かう人間性 B: 思考力・判断力・表現力等 C: 知識・技能 M: メタ認知する力					合計 点/(満点40)点
発表態度のポイント(次の点に注意しながら発表してみよう!)					
1. 原稿を見ないで話す 2. 話しかけるように説明する 3. 不要な動作(身体を揺らす・ポケットに手を入れる等)をしない					
4. 不要な言葉(えっと等)を多用しない 5. みんなの方を向く 6. 時間配分が適切である 7. 早くならない					

### おわりに

私自身が今回ご紹介したリーダーシップ教育を知った時に、自分の人生が開けたような気がしました。以前の自分は与えられた仕事をきちんとやってさえいれば良いと思っていましたが、自分でもリーダーシップを発揮できると知ってからは、いろんなことに挑戦するようになり、新たな扉を開けることができました。その扉を生徒たちには高校生のうち

に開けてもらいたいと願っています。リーダーシップを発揮できるようになるには、生徒自身が自分で考えて行動し続けていく必要性がありますが、自分の行動でチームやクラスに変化をもたらすことができた時に、自分の人生が今までよりもより良くなったと実感できると思います。リーダーシップを発揮する力を身につけ、家族や地域の人々と協力しながら自分が納得できる人生を歩んでいってほしいです。

## 令和2年度用 実教出版の家庭科教材

【資料+成分表】～資料集と成分表を1冊で学べます!～

生活学 Navi 資料+成分表 2020	AB判 / 376 ページ 定価 (本体 820 円+税)
ニュービジュアル家庭科 資料+成分表 2020	B5判 / 360 ページ 定価 (本体 780 円+税)
ニューライブラリー家庭科 資料+成分表 2020	B5判 / 360 ページ 定価 (本体 780 円+税)

⇒ QR コードははじめます。スマホやタブレットから関連する動画をみるすることができます。詳しくはチラシをご請求下さい。

[3点共通]

- ◆「日本食品標準成分表 2015 年版 (七訂)」準拠
- ◆「日本人の食事摂取基準 (2020 年版)」対応予定

※教師用ワークシート集 (別冊) で先生をサポート ※教師用ワークシート集の解答を Web で提供